

第29回
木原記念こども科学賞
作品集 ～2021年～



KIHARA MEMORIAL
YOKOHAMA FOUNDATION

謝辞

今年度のこども科学賞は、神奈川県内の教育委員会（神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会）をはじめ、下記の皆様の温かいご支援・ご協力に支えられて運営いたしております。紙面上で失礼ながら、心より厚くお礼申し上げます。

記

【地域の大学、研究機関】

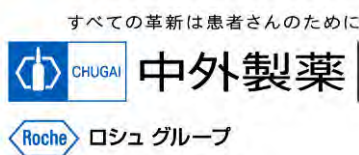
国立研究開発法人海洋研究開発機構、横浜市立大学木原生物学研究所

【地域の企業、金融機関、ライフサイエンス関連企業】

株式会社神奈川新聞社、株式会社サカタのタネ、株式会社ジェノメンブレン、JITSUBO 株式会社、中外製薬株式会社、日本濾水機工業株式会社、株式会社藤本分子化学、横浜銀行、横浜信用金庫

【個人（ライフサイエンス関連の研究者）】

丸山正様、熊谷洋紀様、小井土大様、他4名（ご希望によりお名前非公表）



目次

はしがき	P.3
------------	-----

小学校低学年の部

受賞者一覧	P.5
作品を読んで	P.6
最優秀作品	P.7

「ダニをコクワガタから全てとる方法はないのか？」

カリタス小学校 3年 津田 莉佐

最優秀作品	P.15
-------------	------

「トウキョウサンショウウオのよう生の食べるりょうと
せい長とのかんけいについて」

横浜雙葉小学校 2年 岡田 晟愛

優秀賞抜粋①	P.29
優秀賞抜粋②	P.31
優秀賞抜粋③	P.33
神奈川新聞社賞	P.35
努力賞抜粋①～④	P.36

小学校高学年の部

受賞者一覧	P.39
作品を読んで	P.40
最優秀作品	P.41

「セミの幼虫の研究 4

～羽化のスイッチの ON/OFF は何で決まるのか？～」

関東学院六浦小学校 5年 高橋 颯汰郎

優秀賞抜粋①	P.51
優秀賞抜粋②	P.53
優秀賞抜粋③	P.55
神奈川新聞社賞	P.57
努力賞抜粋①～④	P.58

中学生の部

受賞者一覧	P.61
作品を読んで	P.62
最優秀作品	P.63

「キアゲハがサナギになるまでの研究」

日本大学藤沢中学校 2年 徳安 諒音

優秀賞抜粋	P.75
神奈川新聞社賞	P.77
努力賞抜粋①～③	P.78

第29回木原記念こども科学賞の選考結果	P.80
第29回木原記念こども科学賞応募校一覧	P.81
第29回木原記念こども科学賞選考委員会委員名簿	P.82

表紙の写真・絵

「ダニをコクワガタから全てとる方法はないのか？」
(カリタス小学校 3年 津田 莉佐)

「トウキョウサンショウウオのよう生の食べるしようと
せい長とのかんけいについて」
(横浜雙葉小学校 2年 岡田 晟愛)

「セミの幼虫の研究4
～羽化のスイッチのON/OFFは何で決まるのか？～」
(関東学院六浦小学校 5年 高橋 颯汰郎)

「ぼくのカラフルザリガニ～ザリガニの色を変える実けん～」
(横浜市立並木第一小学校 3年 宮本 珠来)

はしがき

「木原記念こども科学賞」は今回で第 29 回を迎えましたが、一昨年度からは、これまでの市や県の教育委員会、横浜市立大学木原生物学研究所に加え、地域の企業、金融機関、生命科学に関わるベンチャー・中小企業・大手企業・研究機関、個人の研究者などの皆様から幅広くご寄附やご協力をいただき、この賞の充実と認知度の向上等を図っております。

財団の生みの親である木原均博士は、“地球の歴史は地層に、生物の歴史は染色体に記されてある”との名言を残されました。その後の研究者の努力で、染色体中の遺伝物質 DNA の“かたち”が二重らせんであることが発見され、財団のロゴマーク（本冊子の表紙下部）にも取り入れられています。実は、新型コロナウイルス感染の有無を調べる PCR 検査法も、この“かたち”による“しくみ”をもとに発明出来たものです。また、生物の細胞の中に続々と見出されるミクロな“かたち”や“しくみ”の新発見は、人類が新たな難病に直面した際などにワクチンや特効薬の発明に役立つのですが、その出発点は、幼少期に生き物を直接見て触り、その驚きの上に”科学する楽しさを知る”こと（木原博士の精神・願い）です。本こども科学賞は、それをベースに未来の科学者が育つことを希求するとともに、別の道に進むこども達にも、この事業に参加することを“きっかけ”として“科学する目”を持つ市民・県民に育つことを願って毎年実施しております。

お陰様で今年も多くのかども達から、生き物への愛情があふれた作品の応募がありました。まず、応募作品を厳正に審査して頂きました選考委員の先生方のご労苦に感謝申し上げます。また、全ての応募者、子どもたちをお導きくださった学校あるいは家族の皆様方、そして、ご後援くださった全ての関係諸団体の皆様方に、ここに心より感謝申し上げます。

2021年12月

選考委員会委員長

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

常務理事 鈴木 榮一郎

木原 均博士について

木原 均博士（1893～1986）は、東京生まれ、麻布学園を経て北海道大学を卒業、京都大学教授、国立遺伝学研究所長などを歴任されました。この間、コムギのふるさとを求めて学術探索に出かけ、パンコムギの祖先を発見し、タネナシスイカを作るなど、植物遺伝学の分野で多くの業績を挙げられました。特にコムギの遺伝学では、「コムギ博士」として国際的に高く評価され、1948年には文化勲章を受章。また、日本のスキー界の草分けでもあり、冬季オリンピックの選手団長を2度つとめるなど、「スポーツ博士」として活躍されました。1955年、博士は（財）木原生物学研究所を京都から横浜（南区六ツ川）へ移し、亡くなるまで研究活動が続けられました。旧研究所跡は、現在、「横浜市こども植物園」となって市民に親しまれています。晩年は、日常生活の中のふとした疑問を確かめ、観察する「小さい実験」を楽しみました。

